



# JSQC ニュース

No.264

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 医療の質・安全部会立ち上がる
- 2-私の提言 品質立国日本実現に向けた品質管理学会への期待
- 2-ルポルタージュ 第308回本部事業所見学会ルポ
- 3-研究会だより/9月の入会者紹介/デミング賞ほか/部会メンバー募集
- 4-行事案内/論文募集/各賞表彰/第35年度役員体制役割分担

## 医療の質・安全部会立ち上がる 部会員を募集します

医療の質・安全部会 部会長・早稲田大学理工学部 棟近 雅彦

JSQCの3つ目の部会である「医療の質・安全部会」が9月12日の理事会で承認され発足しました。

### 1. 部会の意義

医療の質・安全の向上が、近年、より大きな社会的課題となってきました。JSQCでは、医療関連テーマの研究会、医療分野特別委員会などで、医療の質・安全に関するテーマに取り組んできました。同テーマに取り組む研究者も増え、研究発表会での発表件数も増加してきました。工業界で発展してきた質マネジメントの方法論を医療に適用する研究が進められ、徐々に成果が出始めています。

これまで、質マネジメントの対象領域としては、製造業や一部のサービス業が中心であり、医療の質マネジメントに関する医学、工学の連携は希薄でした。ところが、徐々に共同研究が行われるようになって、「医学系と工学系の実務家、研究者が、共同で医療の質・安全に関する課題に取り組むことは大変有意義である」という認識が強くなってきました。

残念ながら医療の質マネジメントは遅れているといわざるを得ず、課題が山積です。今後より一層この分野の研究を進める必要がありますが、医療の質・安全を主要な研究領域とし、医学系、工学系が融合する場を提供する学会はJSQC以外にありません。より多

くの人が、この研究課題の重要性を認識し、医学系、工学系の融合の場に入ってもらうためには、医療の質・安全を看板に掲げた学術研究の場が不可欠です。そのような場を、この研究領域で工学系として先駆的な活動を行ってきたJSQCに設立することは有意義であり、JSQCの発展にも大きく寄与すると考えられます。

### 2. 部会の目的と活動

本部会の対象分野としては、医療、介護、保健に関わる領域（総称して医療または医療分野と呼びます）です。部会の目標は、医療の質・安全のためのマネジメント技法の開発です。特に医療における質マネジメントシステムの確立をめざします。そのために、厚生労働科学研究事業として「患者状態適応型パスシステム(PCAPS)に関する研究」および「医療の質マネジメントシステムに関する研究」を進めている研究グループ、および「JSQC医療経営の総合的「質」研究会」などと歩調を合わせ、シンポジウム、ワークショップ、研究会などを開催いたします。

当面は、患者状態適応型パス、ISO9001に基づく医療版QMSの開発、精緻化を中心に研究を進めます。また、新たな研究課題の検討も進め、必要に応じて新規研究会を立ち上げます。

研究成果は、JSQC研究発表会、「品

質」誌を中心に公表してまいります。また、医療関係の他学会と協力して、シンポジウム、ワークショップを開催し、医療界へも研究成果が啓蒙されるように工夫いたします。

医療の質・安全に関わる教育・啓蒙活動も進めます。「医療者のための質マネジメント基礎講座」をはじめとして、質マネジメントの基礎教育、研究成果の解説など、様々な催しを企画してまいります。

### 3. 部会の構成と今後

部会の設立は、9月の理事会で承認されました。当面は、

部会長：棟近雅彦（早稲田大学理工学部 術院教授）

副部会長：水流聡子（東京大学大学院 工学系研究科助教授）

永井庸次（日立製作所水戸 総合病院院長）

会計担当：加藤信子（早稲田大学理工学術院）、永松美香子（早稲田大学理工学術院）

が運営管理を担当します。この他に、数名の方に幹事をお願いし、幹事会を中心に今後の活動を計画いたします。

部会に参加される方々を、後出の要領(P3)で募集いたします。また、第1回の部会会合を12月10日(土)17時から、日本科学技術連盟千駄ヶ谷本部で開催いたします。多くの方々の参加を期待しています。

## 私の提言

## 品質立国日本実現に向けた品質管理学会への期待

広島工業大学 久保田 洋志



私は、この2年間、学会誌編集委員会委員長として、指導的立場で活躍中の委員と特集論文執筆者に恵まれて任務を遂行できたことを感謝しています。本委員会では、品質立国日本実現を希求し、それぞれ、品質管理学会の高橋朗前会長と飯塚悦功現会長が提唱した「質創造」と「Q-Japan構想」を核に展開して、『Q-Japan構想』、『ナレジマネジメントの工学的アプローチ』、『産業競争力と国際標準化戦略』、『顧客価値の創造と品質経営』、『海外に学ぶ日本のTQMの課題』、『ものづくりにおける技術の伝承と人材育成』、『医療質安全』、『持続的競争優位

を実現する「ものづくりマネジメント技術」』を学会誌『品質』の特集として企画して参りました。会員の皆様方が、特集記事を読み、業務に生かして下さっているものと期待しています。

品質立国日本実現は、日本の経済発展と福祉向上には不可欠であり、品質管理関係者の使命であります。その使命を効果的に遂行するための理論と実践の研究、および啓発と交流の促進を役割とする品質管理学会の基本的課題は、多くの専門家を育み輩出するとともに、役立つ情報を発信することであると思います。

品質管理の専門家輩出のためには、学会誌への論文掲載が増え、もっと多くの方が積極的に論文投稿するようにして、博士号を取得できる状況を創出する必要があります。研究と

実務に役立つ情報を発信するためには、会員のニーズを充足する査読論文と特集論文が多く、内容の充実した役に立つ品質誌にしていく必要があります。

また、品質立国日本実現に向けた役割に關与する者はすべて潜在的顧客であるとし、顧客価値の視座から顧客を創造していくのが品質管理学会の社会的使命であります。現在、学会は使命遂行のために行事など積極的な活動を展開していますが、学会誌の特集、研究会・部会の成果、学会主催セミナーのテキストなどを再編集した品質管理学会叢書発刊が計画されています。全国の書店を通じて多くの読者を獲得することを期待しています。叢書は厳しい市場評価にさらされるので、学会活動に適切な緊張感を醸成すると推察します。

しかし、品質管理に対する基本認識が欠如する大学人、企業人および政治家・官僚が多く存在しているのが現実であります。品質管理界にも革新が必要であると感じ、微力ながら行動していく所存であります。

第308回本部  
事業所見学会  
ルポTHK(株)甲府工場  
『たゆまぬ改善「めざす  
はグローバル10・21」』

2005年7月19日THK(株)甲府工場にて、第308回事業所見学会が開催された。テーマは『たゆまぬ改善「めざすはグローバル10・21」』で、15名の参加者であった。

THK(株)は、1972年に機械の直線運動用ベアリングを世界で初めて製品化したベアリングメーカーで、直動式ベアリング(LMガイド)分野では、国内70%、世界で50%のシェアを有するトップメーカーである。

経営スローガンである「グローバル10・21」は、21世紀には機械要素部品メーカーとして世界のトップ10に数えられる企業を目指そうという意味で、世界5カ国6カ所に生産拠点を展開中である。

こうしたワールドワイドの4極最適生産を支える全社活動として、TAP活動(THKアドバンテージプロ

ラム)に取り組んでおり、工場ではTAP・II活動を推進している。これはJIT活動を基本とした独自の活動であるが、工程改善や在庫削減などに積極的に取り組んでいる。

工場見学に先立ち、TAP・II活動全体の紹介がされたあと、見込み生産からJIT流の一個流し生産へ変革することで大幅な効率化を達成した改善事例の発表があった。

また、最近のベアリングの用途開発では医療用機器、振り子式鉄道車両、免震装置など幅広い用途が紹介され、めざましい技術動向に大変感銘を受けた。

工場見学では、高精度の微細加工を実現する心地よくござっぱりした工程を見せて頂いた。

その後、質疑応答に入り、参加された筑波大学名誉教授の司馬正次先生を始め、多くの方より活発な質問が出されたが、徳本工場長より技能学校や社内検定制度など技術・技能の維持向上の熱心な取り組みなど明快な回答がされて大変盛り上がった見学会となった。

羽田源太郎(コニカミノルタビジネスエキスパート(株))

研究会  
だより

## 価格対応品質実践研究会

## 価格対応品質実践研究会経過報告

本研究会は市場価格に対応した品質を研究する公募研究会であり、元朝日大学の持本志行氏が提唱しているQDm (Quality Design for market price) を実践・実証することを目的としている。既に7回の研究会がもたれ、11月には8回目の研究会となるが、これまでにエクスカベータ、LCD、コンデンサなどについての実践結果が報告されている。

現状のQDmにおいては既存製品について、自社・他社製品の価格・品質の比較検討が中心である。既存製品が具備している機能を中心に品質要素を展開し、この品質要素別に価格を推定することによって、現存製品の価格比較を品質中心に検討できる。

研究会を開始する以前はQDmのDはDeploymentであったが、現在ではDesignと変わった。このことからQDm表を用いて品質設計を可能とする考え方に拡張されているが、価格を設定して品質設計する目的でのQDmの手順を確立する必要がある。そこで今後はQDm原価企画・QDmコンピュータ支援システム・QDm前段の「設計コンセプト手法」の研究開発を予定している。QDmの考え方の応用に関して、参加メンバーから様々なアイデアが提案されており、残りの研究会で研究報告をまとめる予定である。

大藤 正 (玉川大学)

## 2005年9月の入会者紹介

2005年9月12日の理事会において、下記の通り正会員17名、準会員13名、賛助会員1社の入会が承認されました。

.....  
(正会員17名) 井川 通夫 野口 正見 (食品技術コンサルタント) 堀江 健一 (長瀬産業) 平田 貞代 (富士通) 根岸 達夫 (キヤノン) 加藤 崇文 (太田製薬) 酒向 幸 (関中央病院) 黒野 享 (日東電工) 高橋

義郎 (フィリップスエレクトロニクスジャパン) 戸羽 節文 (日科技連出版社) 宮嶋 幸 (ケー・シー・シー) 三村 光右 (三村経営パートナーズ) 加藤 信子・永松 美香子 (早稲田大学) Md. Rezaul Kalim (電気通信大学) 東 弘之 (ペリサーブ) 森田 卓司 (グッド\*プラクティス)

.....  
(準会員13名) 川村 大伸 (名古屋工業大学) 小田 欣治 (電気通信大学) 安 希慶 (京都大学) 大森 章生・松浦 峻 (慶應義塾大

学) 渡邊 吾朗・野崎 雄太 (東京理科大学) 後藤 直樹・松山 亨・浅野 陽介 (早稲田大学) 今井 崇浩・田 鑫・李 向阳 (朝日大学)

.....  
(賛助会員1社1口) JFEスチール

.....  
正会員: 3036名

準会員: 140名

賛助会員: 173社200口

公共会員: 22口

デミング賞委員会 (委員長 奥田 碩) において、2005年度の日本品質管理賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月9日経団連会館にて執り行われました。

## 1. 日本品質管理賞

タイ・アクリリック・ファイバー株式会社 (タイ)

## 2. デミング賞本賞

佐々木 元 氏 日本電気株式会社 代表取締役会長

## 3. デミング賞実施賞

豊生プレーキ工業株式会社

クリシュナ・マルチ株式会社 シート事業部 (インド)

ラネ・エンジンバルブズ株式会社 (インド)

ラネ・TRWステアリングシステムズ株式会社

ステアリングギア事業部 (インド)

## 4. 日経品質管理文献賞 (文献名五十音順)

(1) 「医療の質向上への革新 先進6病院の事例研究から」

飯田 修平、田村 誠、丸木 一成 編著

(2) 「実験計画法 方法編」 山田 秀 著

(3) 「未然防止の原理とそのシステム 品質危機・組織事故撲滅への7ステップ」 鈴木 和幸 著

## 部会員募集

## 医療の質・安全部会、部会員の募集

医療の質・安全部会の主旨に賛同され、医療の質・安全に関わる研究活動、各種行事に参画を希望される方は、是非部会にご登録ください。これを機に、医療の質・安全に関心のある非学会員の方をご勧誘いただくと幸いです。

部会費: 年2,000円 (非課税)

申込: 随時

申込先: 学会事務局 apply@jsqc.org

なお、第1回の部会会合を下記にて開催いたします。当日は、幹事の選任、研究内容の紹介、部会活動内容の検討と懇親会を予定しておりますので、是非ご出席ください。非会員、部会未登録会員の方の出席も歓迎します。活動内容をお聞きの上、部会登録をご判断いただければと存じます。

## 第1回 医療の質・安全部会

日時: 2005年12月10日(土)17:00 ~ 19:00 (19:00から懇親会)

会場: 日科技連千駄ヶ谷本部1号館2-A

## 行事案内

**第50回クオリティパブ(本部)**  
 テーマ:メディアが見た医療 / 医療の質  
 経営  
 ゲスト:丸木 一成氏 (読売新聞社  
 東京本社 編集局生活情報部)  
 日時:2005年12月5日(月)  
 18:00~20:30  
 会場:日本科学技術連盟  
 東高円寺ビル5階研修室  
 定員:30名  
 参加費:会員 3,000円 非会員 4,000円  
 準会員・一般学生 2,000円  
 (含軽食・当日払い)

### 「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、**報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロン**です。

論文誌編集委員会

詳細:ホームページをご覧ください。  
 申込方法:本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

**第97回講演会(本部)**  
 テーマ:日本の製造業の国内回帰  
 日時:2006年1月下旬  
 13:30~16:30  
 会場:日本科学技術連盟  
 東高円寺ビル2階講堂  
 プログラム:「レクサスの開発・販売戦略」(仮題)  
 吉田 健氏(トヨタ自動車(株))  
 他1件依頼中

定員:150名  
 参加費:会 員 4,000円(締切後 4,500円)  
 非会員 6,000円(締切後 6,500円)  
 準会員 2,000円 一般学生 3,000円  
 詳細は決まり次第ホームページに掲載いたします。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

### 行事申込先

本部:TEL 03-5378-1506  
 FAX 03-5378-1507  
 E-mail:apply@jsqc.org

## 各賞表彰

第35回通常総会において、第34年度研究奨励賞2件、品質技術賞2件、ならびに品質管理推進功労賞7氏の授賞および表彰が行われた。

### 研究奨励賞

『On Estimable Effects and Aliasing Patterns in Shainin's Variable Search』

蔡 志 紅 氏 (京都大学)  
 「品質」Vol.34, No.4, pp. 109-120 (2004)

『Necessary and Sufficient Condition for Optimality of Monotone Procedure in Condition Monitoring Maintenance with General Number of Actions』

金 路 氏 (電気通信大学)  
 「品質」Vol.35, No.2, pp. 73-83 (2005)

### 品質技術賞

『効果的なFMEA実施のための重要概念とその適用』

鄭 敬 勲 氏 (株)ジディエンピソリューション)  
 「品質」Vol.35, No.1, pp. 33-41 (2005)

『戦略顧客とのコラボレーションを支援する情報システムの新たな企画方法』

小林 英 樹 氏 (松下電器産業(株) コーポレート情報システム社)  
 「品質」Vol.35, No.1, pp.126-138 (2005)

### 2005年度 品質管理推進功労賞

浅田 俊和氏 元・関西ペイント(株)  
 入倉 則夫氏 (株)デンソー  
 小大塚 一郎氏 (財)日本科学技術連盟  
 羽田 源太郎氏 コニカミノルタビジネスエキスパート(株)  
 花村 和男氏 アイシン精機(株)  
 福丸 典芳氏 (有)福丸マネジメントテクノ  
 吉澤 正孝氏 富士ゼロックス(株)

## 第35年度役員体制決まる

去る11月12日に開催された第35回通常総会において新役員が選出承認され、第35年度の役員体制は以下のとおり決まった。

会長	桜井 正光	(株)リコー 代表取締役社長執行役員
副会長	圓川 隆夫	東京工業大学 教授
理事	渡邊 浩之	トヨタ自動車(株) 技監
	荒木 孝治	関西大学 教授
	安藤 之裕	早稲田大学 客員教授
	飯塚 敏之	(財)日本規格協会 課長
	岩田 修二	サントリーフーズ(株) 取締役
	大野 正直	日本ガイシ(株) 常務取締役
	長田 洋	東京工業大学 教授
	神田 範明	成城大学 教授
	國澤 英雄	朝日大学 教授
	小大塚 一郎	(財)日本科学技術連盟 事業部長
	田中 健次	電気通信大学 教授
	永井 一志	玉川大学 講師
	中島 昭午	エス・バイ・エル(株) 取締役相談役
	永田 靖	早稲田大学 教授
	永原 賢造	(株)リコー 技師長
	松浦 剛	豊田合成(株) 取締役社長
	光藤 義郎	JUKI(株) 中央技術研究所 部長
	山田 秀	筑波大学 助教授
学会理事	釜谷 佳男	富士ゼロックス(株) マネージャー
	鈴木 秀男	筑波大学 助教授
	瀧沢 幸男	日野自動車(株) グループ長
	根岸 達夫	キヤノン品質統括センター 副所長
	山本 涉	電気通信大学 講師
監事	椿 広計	筑波大学 教授
	山崎 正彦	元・コニカ(株)
顧問	飯塚 悦功	東京大学 教授

## 第35年度役員役割分担表

論文誌編集	永田 尾島
学会誌編集	光藤
広報	根岸 瀧沢
事業	神田
研究開発	田中
規定	飯塚
会員サービス	岩田 釜谷
選挙管理	圓川
庶務	永原 鈴木(秀)
最優秀論文賞 / 研究奨励賞	圓川 永田
品質技術賞	渡邊 光藤
品質管理推進功労賞	桜井 渡邊
国際	安藤 兼子
標準	山田
総合企画	桜井 圓川
Web特別	山本
研究助成特別	國澤
ANQ支援特別	安藤 飯塚
QC相談室特別	荒木
中部支部	松浦 大野 國澤
関西支部	中島 荒木
ソフトウェア部会	兼子 笹部 保田
QMS有効性および審査研究部会	福丸 平林
医療の質・安全部会	棟近 水流 永井(庸)

委員長 副委員長